

鎌倉文化—美術の革新

平安時代の末、都と地方の交渉が盛んになり、各地の有力者が文化の担い手として成長すると、美術の分野でもそれまでの調和のとれた優美なものに代わり、動的で力強いものが好まれるようになってきた。

新しい美術を生み出した仏師や絵師に活躍の場を与えたのは、鎌倉時代初頭の動乱であった。活躍の場は、第1に平氏の南都焼打ちで灰となった東大寺などの再建、第2に治承・寿永の乱後の京都復興、そして第3に新しい東国の都市鎌倉の建設があげられる。この中で仏像や様々な装飾品の製作が進められた。

○鎌倉文化の美術

●建築

1181年、^{たいらのしげひら}平重衡が東大寺など奈良の寺院を攻めた（南都焼打ち）。

↓
(1) _____ が東大寺の再建の責任者に任じられました。

→(1) は各地で寄付を集め、(2) _____ という新しい建築様式で、東大寺の再建を進めた。

⇒現存する(3) _____ は、数少ない(2)の遺構の1つである。

◇(2) …宋から伝わった建築様式で、必要な装飾を省略するため、少ない用材で短期間に建築可能

◇(4) _____ …(1)を助け、東大寺の大仏復興に参加した宋の工人



図1 東大寺南大門

<他の建築様式>

(5) _____



図2 (6) _____

和様



図3 蓮華王院本堂（三十三間堂）

折衷様



図4 観心寺金堂

●彫刻

寺院の復興・各地の寺院建立が進んだ。

→寺院内部に安置する仏像の需要が増加した。

⇒「慶」の字を名にもつ奈良仏師が製作で活躍した。

◇この一派は、平安時代の仏師定朝の子孫

◇^{こうべん}康弁…^{うんけい}運慶の三男／^{こうしょう}康勝…^{うんけい}運慶の四男

◇^{かいけい}快慶…^{うんけい}運慶の父の弟子

南大門⁽⁷⁾ _____ (仏師：⁽⁸⁾ _____ ・ _____ ら)

興福寺無着・世親像 (仏師：運慶ら)

興福寺龍灯鬼・天灯鬼像 (仏師：康弁ら)

六波羅蜜寺空也上人像 (仏師：康勝)



図5 金剛力士像 (左：^{あぎよう}阿形／右：^{うんぎよう}吽形)



● 絵画

＜絵巻物＞

新たに台頭した武士の生活を伝える絵巻、
戦乱を体験した人々の心に訴える絵巻、
布教を目的に祖師の活躍を伝える絵巻が登場した。

『おぶすま 男 衾 三郎絵巻』…武士の生活を題材とする絵巻

『(9) 』…竹崎^{すえなが}季長が描かせた絵巻

『⁽¹⁰⁾』…一遍の活躍を伝える絵巻

『北野天神縁起絵巻』…菅原道真の生涯に関する絵巻



図9 「福岡の市」『一遍上人絵伝』(場面左：一遍)

<肖像画>

写実的な技法の発展、個性の重視、宋の絵画の影響が重なる。



にせえ
似絵と呼ばれる肖像画が発達した。

⇒描き手として、⁽¹¹⁾ **藤原信実**父子が有名である。

◇(11) の作として、『伝源頼朝像』『伝平重盛像』が有名

◇禪宗の僧は、一人前になると師や先輩僧の肖像画を拝受

⇒この肖像画は⁽¹²⁾ と呼ばれ、主に礼拝に使用



図10 頂相『明恵上人樹上坐禅図』

●その他

<刀剣>

武士の成長とともに、刀剣の製作が盛んになった。

⇒名工として、備前の⁽¹³⁾_____・京都の⁽¹⁴⁾_____・

鎌倉の⁽¹⁵⁾が有名である。

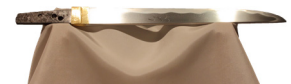


図 11 正宗作の短刀

<書道>

(16) 入道親王が和様に宋の書風を加味し、⁽¹⁷⁾ を創始した。



<陶器>

(18) が中国の製法（^{うわぐすり} 釉 の利用）を伝え、尾張で⁽¹⁹⁾ 焼を開始!? 図 12 尊円入道親王